

地盤改良・基礎工事

□スウェーデン式サウンディング試験

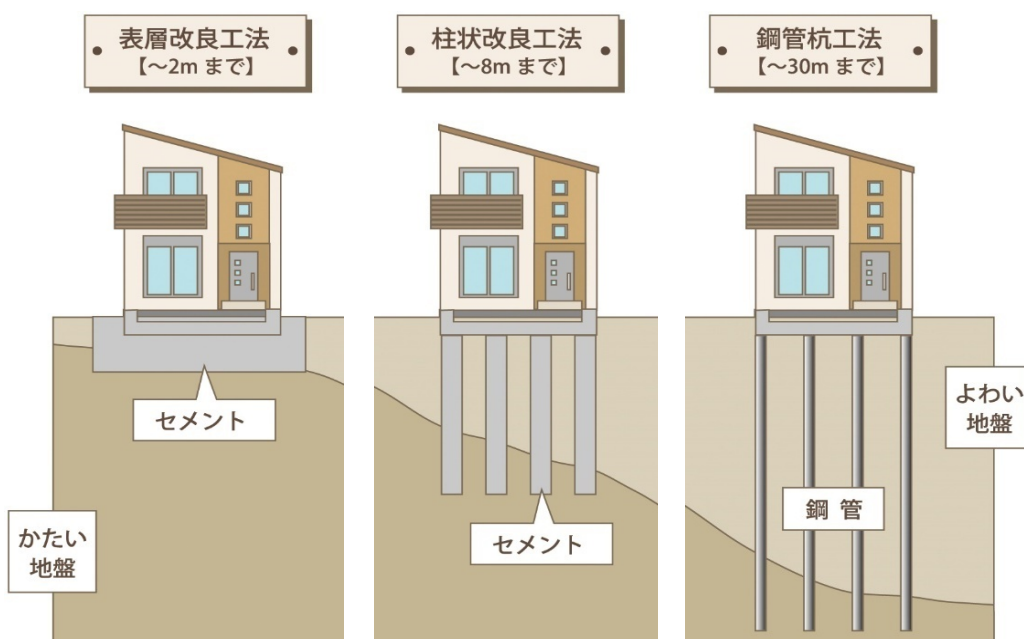


静的貫入試験の一種で、原位置における土の貫入抵抗を測定し、その硬軟または締まり具合、あるいは土質(砂・粘土)などの構成を判定するために行います。



柱状改良施工後の写真

□地盤調査実施後、その地盤に合わせた 最適な地盤改良工事をします。



表層改良工法とは、杭を作るのではなく基礎の下の軟弱地盤を、すべてセメント系の粉体固化材を軟弱土と混合・攪拌し転圧して硬質で均一な安定層を形成する工法です。

柱状改良工法とは、安定した地盤までセメントミルクを噴射注入し、土の中にコラムと呼ばれる柱状体を作り、その上に住宅の基礎を作るという工法です。

鋼管杭工法とは、小口径鋼管杭を使用し、支持層まで回転貫入し支持力を得る方法で、住宅の荷重を杭を介して強固な地盤に伝えることにより、支持力確保及び沈下の抑制を図る工法です。

□「面」で建物を支えるベタ基礎



弊社では基礎部分に「**ベタ基礎**」を採用しています。

面で分散して建物の荷重を逃がす為、不同沈下（液状化）に強く、ベタ基礎そのもので、薬剤土壌処理と同等のシロアリ対策になります。また全てに鉄筋が入っており、クラック（ヒビ）が入りにくいなどのメリットもあります。



地盤改良後は砕石を敷き、ランマーなどでしっかりと表面を締めます。



砕石の上に防水シートを敷き、その上に鉄筋を配してコンクリートを流し込みます。